

地域経済

まちの情報をカメラレポート

イケメン武者で菊池PR

武者祭りの新企画で菊池一族24人が登場

「来たれ！イケメン」 菊池観光協会が開いている菊池武者祭りに、今年は新企画で24人の「イケメン武者」が登場した。東北の湯処菊池市は、南北朝期に南朝を支えて活躍した九州を代表する中世武士団・菊池氏の本拠地。菊池観光協会では秋に菊池氏24代の武者行列を催行しているが、九州新幹線全線開業まで1年を切り菊池を大いにPRしようと、手持ちの鎧兜（よろいかぶと）を活用、昨今の「武将ブーム」を捉えての新企画となった。これはもうもの、出場者が集まるか、協会では気を揉んだようだ。当初30〜40人と予想した応募者数は、地元を中心に熊本市や福岡県からも応募があり合計64人。これで自信がついた。同協会の岩永悦朗事務局長。1次選考にパスした24人が3月20日の「ザ・イケ武者コンテスト」本選に臨んだ。コンテストでは、ほら貝の音を合図に登場した「イケ武者」が、兜を脱いでパフォーマンスを披露。パフォーマンスは、ブレイクダンス、読経、和太鼓、書道実演から会社の宣伝、菊池高校校歌独唱etcと様々。グランプリには熊本市から参加した早瀬悟さん（20歳）が選ばれ賞金10万円を獲得した。審査員として参加した福村三男菊池市長は、「なかなかいいアイデア。新幹線開業を控え菊池一族の名前を大いに売り込みたい」と話していた。



「武将ブーム」に乗って「第1回イケ武者コンテスト」 菊池観光協会

菊池氏24代に因み事前審査に合格した24人の「イケメン武者」がコンテスト本選に臨んだ



開始前、審査員を務めた福村三男菊池市長と握手する久川誠太郎君（18歳）。コンテストには祖母の後藤りつ子さん（左端）が応募した



惜しくも入賞は逃したが福岡県から参加したオーストラリア人語学教師のステイブン・ローソンさんは見事な弓の所作を披露した



懐良親王を奉じ南朝方として活躍した第15代菊池武光前代パフォーマンスを披露する参加者。菊池市で農業を営む笠さんは、「菊池のこめを食べて」と米俵を担いでアピール。笠家は菊池一族につながる家系だそうだ



入賞した「イケ武者」3人。左から審査員特別賞の岩永達則さん（菊池市、25歳）、グランプリの早瀬悟さん（20歳、熊本市）、準グランプリの城憲治さん（27歳、菊池市）

植木町で「戦闘遺跡」

植木、玉東両町で西南戦争フィールドミュージアム構想

童謡なら、ザックザックと出てくるのは大判小判なのだが、植木町の山頭遺跡から出たのは西南戦争の鉄砲の玉である。上の発掘現場の写真でサイコロのように見える土柱は、すべて小銃弾や薬莢などの出土地点だ。山頭遺跡は、熊本市北部の国道3号渋滞対策として、国土交通省熊本河川国道事務所が進める植木バイパス工事に伴う事前発掘調査で見つかった。「戦争の遺跡は残ることが少なく、山頭遺跡のように大量の小銃弾が出たケースは全国的にも珍しいと思う」と、発掘を担当する植木町教育委員会の中原幹彦文化財班長。同遺跡の塹壕跡では官軍が使用したと見られる当時最新式のスナイドリ銃の薬莢が多数出土。その東側ではエンフィールド銃など薩軍が使用したと見られる旧式の前装式銃の雷管などが多数出土。「両地点の距離は60mから約100m。官軍と薩軍が至近距離で撃ち合った遺跡」と中原班長。官軍が直接銃火を交えたと考えられる遺跡が、発掘調査で確認されたのは全国でも初だそうである。官軍兵士の上着の金ボタンやピストルの薬莢も出土しており、今はのどかな田園地帯で130年前に繰り広げられた壮絶な戦闘が生々しく伝わる。植木、玉東は西南戦争でも最大の激戦地。両町では共同で「西南戦争遺跡群連携保存活用協議会」を立ち上げ、両町内に残る遺跡の発掘調査を進め、遺跡の国指定を目指している。例えばレンタサイクルで遺跡を巡るなど、保存と同時に観光面で活用を図り地域の活性化にもつなげていきたい考えだ。九州新幹線全線開業を1年後に控えた3月23日、植木町は熊本市と合併。熊本市は熊本市最大の集客装置と位置づけ、桜の馬場に整備する観光交流施設をテコに熊本城入場客を中心に街地へ回遊させたい考えだが、旧植木・玉東両町が進める西南戦争遺跡群の観光活用を目指す「フィールドミュージアム構想」と熊本城のリンクも検討して欲しいものだ。



「山頭遺跡」から出土した官軍兵士の軍服のものと思われる金ボタン。現在の学生服のボタンとよく似ている

「山頭遺跡」（熊本市植木町大字滴水）での西南戦争当時の銃弾の出土状況



展示用に「山頭遺跡」発掘現場から切り取られた銃弾の出土状況（3月20日、田原坂資料館で）



3月20日、植木町教育委員会が田原坂資料館で開いた「山頭遺跡」の発掘成果発表会で展示された銃弾